

## 第2回軽米町総合戦略策定委員会議事録

○開催日時：平成27年7月31日（金）午後1時30分～3時30分

○開催場所：軽米町農村環境改善センター1階大会議室

○出席者

委員：岩手大学名誉教授 齋藤徳美、岩手県立大学特任准教授 千葉実、軽米建友会会長 坂本昌彦、二戸地域振興センター所長 佐々木亨、株式会社岩手銀行軽米支店支店長 田澤義明、株式会社みちのく銀行軽米支店支店長 藤原博幸、株式会社エフエム岩手営業部販促企画室長 舘澤徳寿、軽米町認定農業振興会会長 田中祐典、軽米町子ども子育て会議委員 苅谷百合子、軽米町体育協会副会長 田頭一男、軽米町文化協会会長 堀米成嘉、一般公募 堀米孝太郎、竹澤勵

○欠席者

委員：軽米町社会福祉協議会会長 菅原皓文、新岩手農業協同組合軽米支所長 山下祐一、二戸地方森林組合参事 小林康夫、岩手県立軽米高等学校校長 熊谷拓也、軽米町PTA連合会会長 大崎純也、

事務局：藤川副町長、総務課（日山、平、吉岡、畑中）

委託業者：非営利活動法人仕事人倶楽部 山田、水野、大島

### ○開会

（事務局）役員改選に伴う委員の交代について／会議の成立について

本委員会は、20名の委員のうち13名の委員の出席をいただいたので、設置要綱第6条第2項により過半数の出席をもって会議が成立することを報告する。

また、軽米建友会の役員改選により会長が上柿則昭さんから坂本昌彦さんへ変更となったため本委員の交代を報告する。

### ○委員長あいさつ

（齋藤委員長）大いに熱のある議論をして欲しい。各地で検討が進められているが、数字を見るとどこも厳しいなという印象を持っている。盛岡でも人口は減少傾向にある。住んでいる人が、どのような町をつかっていくかの意識が大事なので、皆さんからたくさん意見をいただき、それを計画に取り入れ、実行していくことが必要だと考えている。忌憚ない意見をいただきたいのでよろしくお願いしたい。

### ○協議事項

#### （1）軽米町人口ビジョン・総合戦略骨子案・アンケート調査結果について

資料について説明（事務局、省略）

（齋藤委員長）人口の将来像、それに総合戦略について、行政で考えた案を説明してもらった。これはあくまでもたたき台。これについて、委員の方々からご意見をいただいて、それを協議して反映させるというステップでいきたいと思う。前回と同じように、時計回りで一人ずつ順番にご意見をいただきたい。

（委員）だいたいの流れを聞いて、私なりに考える案はあるが、これからの人は実際にどうするか、

関係する人の折衝をどうするかが課題。モノがたくさんあったり、建物は快適になったけど、その中にいる人、家族の間はどうなのか。職場の相談など、間をつなげる人が少ない。男女の交流にしても、だれか持ち上げる人がいないと、当の本人は変わっていかない。繋げていく人が必要。相談しやすい人、気軽に行ける喫茶店なども必要なのではないか。

(委員) 交流の場が無いと思っている。子どもたちも、どこにいるのかわからない。子どもが集まれる場、子どもと大人の交流の場、そういう場所があればいいと思う。

(委員) 何人かと話をしたが、軽米は魅力がないという話になった。しかし、魅力とは何だろう？と考えた。何が軽米の魅力なのか。総合戦略の中で見ると、いろんな部分で少しずつはやられている。なのになぜ？という思いがある。例えば p.30 には、子育て支援も実施されているのにも関わらず、人が来ないのはPRが足りないのか、利用されないのか、それを突き詰めていく必要がある。何が魅力なのか、それを地域でもう少し話してみたいと思う。

(齋藤委員長) 軽米町の魅力として、これだと思えるものはないか？

(委員) 私としては、自然がいっぱいあるところ。広い土地があり、農業もいろいろなものがあって、〇〇さんのような人もいる。その一方で、高齢化で手が回らないところもある。その辺で、どうすれば良いかわからないことがある。

(委員) 個性的な魅力はたくさんある。町内の人の魅力の再発掘、再発見として、おもしろい人はいっぱいいると実感している。もっとアピールした方が良い。男女の出会いからスタートして、街コンとか、合コンの町軽米としてアピールしても良いかと思う。草刈りコン、川掃除コン、田植えコンなど、地域の特性を活かして、いろんな出会いの場を提供していくことが必要。たとえば、〇〇くんはアウトドアの達人として、山や川で活躍している。そういう人々をどんどん前面に出して、アピールしていくことが大事。そこからスタートではないか。

(委員) やりたいことがたくさんあるということはわかるが、これを相当絞り込まないといけない。これは戦略だから、人口が減る中でどんな手が打てるのか。私が軽米に戻ってきた理由は、食とエネルギーが自給できるから。人口が 9,000 人だろうが 6,000 人だろうが関係ない。もちろん、みなさんと一緒にやればいい。極論すると、兵隊が減ったらどうするか？それは本丸に集結する。軽米町の本丸とは、この中心街。そこに集結する。あちこちに空き家がたくさんあるなら、それをリノベーションして、そこに住む。車でないと移動できない高齢者や、車で送迎している高校生は、市街地の空き家に住んだらどうか。人口は減っていても、事業所は減っていない。年金で食べていけるから、商店街の店も続いている。でも人が増えれば、またちゃんと商売したくなるだろう。軽米の最大の魅力は「木」。熱エネルギーとして確保できる木があることが最大の魅力なので、それはぜひ入れてほしい。百人委員会はとても気になったが、自分は応募しなかった。テーマごとの議論と言うよりも、行政区が重要。区長との定期的な懇談会を開く必要があるのではないか。百人委員会はテーマごとに議論するというので、ちょっと違うなと思った。区長との定期的な懇談会を開いたり、区長にタブレットを配って、行政に対する区の意見を入れてもらうようにすれば、リアルタイムで地域の情報が集まる。お知らせ版が不要となる。紙とインクをくれれば、自分で印刷して配ることができるので、お知らせ版だけなら持ってこなくてもいい。項目を細かく分けすぎなのではないか？まちづくりにも役立って、整備された情報ネットワークを使い、買い物の不便な

人にも役立つものができる。スマホは例えば LINE を使えば、中国の人とも無料でテレビ会議をやっている。いつでも大変な時は手伝うつもりでいる。

(委員) 事務局から基本的な考えは説明を聞いたが、できるものは早急に取り組むべきではないかと思う。6月22日に高校再編の意見交換会が二戸の福岡工業高校であり、自分も参加した。軽米からは、高校の同窓会長、町会議員が2人、一般の人が2人と、6人くらいしか出ていなかった。軽米高校がなくなれば、中学生は二戸や八戸、盛岡へ出ていかなければならなくなる。経済的にも軽米町にとって困ることになる。もっと一般の人が関心を持ちてほしい。今、軽米夏祭りの準備が行われているが、せっかくあのような催しがあるのに、他所から観に来てても駐車場がない。「ハイキュー！」のファンの話も前回出ていたが、今もほぼ毎日のように来ている。自分の家は物産館の向かいだが、若い女の子の「ハイキュー！」ファンがバスから降りてくる。自分がいるときはお茶を出したりしてコミュニケーションを取っているが、そのような場がもっとたくさん必要。自分たちは家にいるときしかできない。仕事などで出ていて、いない時も多い。商売をやっている方は、そのほとんどが店の中にいると思うので、自分の店でも良いし、どこか空き家を利用して、接待する場所を設けて欲しい。早急にそういったことに取り組むべきではないか。また夏祭りについて、九戸村ではふれあい広場という公園があり、バス停も併設されているが、そこにステージを組んで、催しができるようにしている。子どもが遊べる場もあり、軽米にも同じようなものが必要だと思う。子育ての人が遊ばせる場所としても良いので、そのような場所を作って欲しい。

(委員) 厳しいことを言うかも知れないが、聴いていただきたい。軽米の魅力は何かというと、何もないのが魅力。それが一番であり、変なものを作らないで欲しいと思っている。中・高・大学の同級生とこの委員になっていることを隠しつつ話をしたら、「光熱費がゼロの町」というのは魅力だという話になった。薪ストーブなどであれば可能だし、素敵だと思う。住んでもらうためには初期投資が必要。一年目は家賃をゼロにし、二年目以降は負担してもらう手もあるのではないかと。それからアイデアなので、否定しないで聞いて欲しいが「シングルマザーの町かるまい」というのもありではないか。シングルマザーは仕事を探しているのだから、仕事をしている間は、町で子育てするというのも良いのではないかと。そういう人を集めると、男性も集まってくる。雑穀もイメージが悪いので、シリアルという。また、軽米が読めないのだから「かるまい」とひらがなににする。結婚できない人はできないので、そこにカネを使うのはもったいない。自分は婚活イベントも十何回やっているが、ダメな人はダメ。自発的に行く人でないと結ばれることはなく、いやいや行くような人は、それが女性に見えてしまう。自分で解決できるまで放っておくのがいい。夏祭りが出会いの場になるので、それをガンガンやるのもいい。それと、小金持ちを相手にするのではなく、大金持ちを相手にする手もある。大金持ちは、ヘリでゴルフに行く。北上のとある方は、秋田までヘリで行くと聞いた。廃校跡を使って、ヘリポートを整備したらどうか。六本木ヒルズから飛んでくる、釣りをしにくるかもしれない。〇〇委員も言っていたが、「ハイキュー！」は使わない手はない。「ようこそ、聖地巡礼」のようなステッカーを作って、おもてなししたらどうか。地域おこしの基本は「できることを、できる範囲で、できる人が継続的にやる」だ。やり始めたら、途中でやめない。材木町の夕市をやっているが、40年続いているのはこれを守っているからで

あり、9,000人集めるまでになっている。某ビールメーカーは1日の売上、平均100万円になっている。

(委員) 今日初めて参加させていただいた。旅館で外からのお客様を相手にしているが、〇〇委員が言われたのと同じで「この町は何もないよね。そこがいいのよ」と言われる。住む人と来る人の見方は違う。三沢の航空ショーに行くのに、一番良いのはうちだといわれたことがある。そのような立地の良さは活かしていくべき。たくさんの項目をやっていくのではなく、ポイントを絞って、これからもこの町に住んでいく私たちが、やれることをコツコツやっていくことでしか実現できないと思う。

(委員) みなさんの話を聞いて、とてもおもしろいとおもった。アイデアを出し合うこと、これが大事なんだと思ったし、ぜひ実現して欲しいと思った。人口減少対策として、全世代をターゲットにという話があったが、子育て世代、または超高齢者、雇用が生まれるような世代のようにやはりターゲットは絞った方が良いと思う。自分は軽米に来てまだ四ヶ月だが、太陽光発電のことは来て初めて知った。外資系企業が入っているようだが、なぜ地元の企業でできなかったのか、そこが問題だと思う。地元の事業者の力を活かして、ビジネスのメリットを説明すれば、地元企業でやろうという人も出てきたのではないか。町には、アイデアを事業化する仕組み、支援する仕組みを作ってほしい。金融機関や大学等と連携していくのは、今普通にやられていることであり、アイデアを形にする仕組みを作っていただきたい。昔は融資というと不動産を持っていないとダメだったが、今はファンドを作るなど、いろいろな方法がある。ぜひ、事業者にはアイデアを出してほしいし、町にはアイデアの元になる情報を積極的に出す仕組みを作ってほしい。住民の皆さん、特に若い方が地域をPRする活動に参加していくことが必要だと思う。皆さん方がその組織づくりの先頭に立っていただければと思う。

(齋藤委員長) アイデアがあれば、金融機関としても知恵を絞っていただけるということか。

(委員) 基本目標にあるとおり、人が今度も住み続け、そのためには仕事が必要、それがまさに今回のテーマ。具体的な施策を見ると、地域の特性を活かしつつというのは非常に良いこと。外から、農林業に興味を持ってやって来る人もいると思う。今回のアンケートが非常に立派にできているので、これをもっと分析して、地元以外の人はどう考えているのか、例えば住む場所を探すのが大変という意見もあったので、もう少し分析した上で見えてきたことを戦略に取り組み内容に入れたら良いと思う。私も軽米に来て二年。同じような考えが含まれていると感じた。課題を克服する必要がある。軽米は中心部と晴山が合併したということだが、経済圏がそれぞれ違うように感じる。軽米は八戸、晴山は二戸を向いている。この2つの交流がもう少し必要と感じている。人が流出するのに歯止めをかけるのは、魅力をもっともっと発信していかなければならないし、その方法を考えた方が良い。

(委員) 骨子を拝見させていただき、非常に網羅的でスマートだと感じた。軽米町の特色がそんなにとんがって出ているわけではなさそうに感じた。何もない町という話が出ていた。自分は4月に二戸にやってきたが、何度か軽米町にお邪魔させていただいている中では、知られていないポテンシャルがいくつもあるように感じる。シリアルのように、今後面白く化けていくような素材がたくさんある。町中も昭和のような風情が残っていて、歩くだけでも魅力が

ある。「ハイキュー！」のファンがたくさん来ているという話だが、風景や風情が魅力的に感じられるのではないか。総合戦略を見ると、人口減少に歯止めをかけるというのを狙いつつ、出ていくものは仕方ないという感じになっているが、外から来る人に来てもらって子どもを産んでという話で一番難しいところをあえてやろうとしているように見受けられる。出ていく先は八戸や二戸などの近隣市町村だ。ここは三圏域の中心というであり、出ていなくても、仕事や通学は可能という地の利はもっと活かせる。そんな視点にもっと力を入れて良いのではないか。

(委員) 自分たちの業界では、従業員が高齢化していて、若い人が少ない。もっと若い人たちが残ってくれば、業界としてもいい。自分の娘は東京にいて、震災の地震が非常に怖くて、30年以内に関東にも巨大地震が来ると言われて、昨年帰ってきて二戸で仕事をしている。普段は仕事場と家との往復だけだったが、街コンに誘われて軽米の街に出てみるといろんな人に会える機会がある。そのような機会がないと、残っていたとしても、ほとんど知り合う機会がない。また、自分の所の従業員で、以前は青森県に住んで通っていたが、軽米町は保育料が安いということで、町内にアパートを借りて3ヶ月前に移り住んだ人がいる。その人の嫁さんも求職活動をしている。仕事をする場があれば、出ていった人も帰ってくるのではないか。

(委員) 街コンなどをやっているが、出てきてもマイナスのオーラを背負っている人はだめというのは確かにその通り。こちらで参加者を募るのも結構大変。街コンと言っても、出会いの場の提供なのか、町内の商店街の振興なのか、中途半端になっているので、これから改善していきたい。夏祭りは出会いの場という話もあって、確かにそうかも知れないが、現状としては手が回っていない。建設業をやっているが、仕事の範囲は資料に掲載されていたナニヤトヤラ連邦内がほとんど。なぜそうなのかと言えば、中央にあるから。二戸も八戸も久慈も、どこも1時間以内に行けるので、地の利は間違いなくある。軽米に住んで、二戸や八戸で仕事をする。保育料や医療費がかからないので、もっと手厚くして、そこをアピールしていくのも必要。高校がなくなってしまうという話も合ったが、その先の進学先がないのも問題。大学が1つくらい軽米にあれば、若い人も来る。出ていくのは仕方ないと、最初から捨ててしまうのもどうか。いろいろと面白い意見があったので、参考にさせていただく。

(千葉副委員長) 何点か感想や意見を述べさせていただきたい。こういうビジョンをつくるのが目的ではなく、これをいかに実行するか、そして成果を出すかが大事。意味のある原因分析があって、そこから対策を考えるというシナリオが必要。分析の中では、単年度の話が多い。軽米町は母集団が必ずしも多くないので、1人~2人の動きに大きく影響される。単年度の結果だけで言い切っているところが結構あるので、推移として傾向をみてほしい。2点目は人口ビジョンのp7の産業別で、岩手県では第一次産業が大事だが、たった20年で半減している。何でこんなに減少したのか、また2次産業も大きく減っているの、その原因分析が必要。3点目、人口ビジョンを実施する上で、合計特殊出生率2.07について県も意識しているが、実現可能性は考慮されていない。地域として実現できるのか、議論する必要がある。県の場合は、国の施策に合わせないといけない部分もあるが、この地域でできるのかどうかを議論する必要がある。4点目、若者層をターゲットにするという話の中で、それを流

出させないのか、出てもいいから戻ってこさせるのか、どちらかを明確にした方が良い。自分は後者がいいと考えている。いずれにしても、具体的な戦略が必要。シングルマザーという話も出ていますが、誰でも受け入れるやさしいまちというコンセプトがいいのではないかと。婚活も若者だけが対象ではなく、微妙な年、訳ありの人、そういった人も婚活の対象にできるのではないかと。前回も話をしたが、地場企業は支援すべきだ。生き残ってきた地場企業は、残ってきた理由がある。地味かも知れないが、そういったところに雇用が生まれると良い。観光のコーディネーターからお金が生み出せるようなアイデアも以前お話をいただいた。また、国の試験研究機関、特に雑穀部門を持ってくるといのも事務局にはしていた。また、今日の午前中話をしてしたが、農業で残ってきているところは、補助金をうまく持ってきているところで、経理のできる人がいるという特徴がある。民間で経理をしてきた人、そういう人を連れてきて、移住させる手もあるのではないかと。いくつかの団体を兼務させてもいい。経理で団体を強くすることで、団体の雇用にもなり、団体の発展にもつながる。

(齋藤委員長) 副町長さんも参加されているので、感想でも良いのでご意見をいただきたい。

(副町長) 事務局なので、中身についてどうこうということは立場上言えない。7/6 にやってきて、この件について議論したのは先週と今日の午前中の2回だけである。今日、皆さんのご意見を聞いて、もっともなこと、共感できることがずいぶんあった。盛岡から来たばかりだが、自分なりに今後どうしていくかというビジョンを持ってきたつもりで、この計画には思い入れがある。ここはメガソーラーの話もあるが、やはり一次産業がメイン。就業人口も多いし、不思議と雑穀が残っている。なぜこの地域に雑穀が残ったのかを考えてきた。軽米の食文化を大事にする気持ち、一途な住民の方々の真面目さで残ってきたと思われるし、大事にすべきだろう。年寄りが土地を手放さずに、耕作し続けているのが1つの売りだと思う。若い人たちを増やすというのは大事だが、それはどこでもやっていること。子育ての地域間競争が始まっている話も聞く。若い人たちがどこを選ぶか、それは相当な特色を出さないといけない。それよりも、ここに住んでいる人たちを幸せにする。お年寄りにやさしいまちづくりという視点、いろいろあったけど最終的にはここに住んでいて良かった、というような町にしたい。先ほど、市街地に集積という話も合ったが、年寄りから土地を取り上げると、その人たちはすぐに弱ってしまう。やはりお年寄り土地を持ち続けたいといけない。

(齋藤委員長) ここまでで、一通りのご意見はいただいた。他の委員の話も聞き、さらに発言があればお願いしたい。

(委員) 質問させていただきたい。Wi-Fi ステーションとは何か、教えていただきたい。それともう一点、〇〇委員から百人委員会の話が出た。私も応募しようと思ったが、5つのグループがあり、1つのグループは20人で、そのうち15人は関係団体で決まっているという話だ。一般は5人で、全部で20人というのを聞いてちょっとがっかりした。今からでも良いので、一般の方の人数をもっと増やすことはできないか。

(事務局) Wi-Fi ステーションは、誰でも無料で使える公共の無線 LAN。例えばイメージとして、物産館に行くと、近辺の情報や周辺の観光情報を流すことができるようになる。

(事務局) 百人委員会の候補者について、私たちが一番心配しているのは、100人の委員を本当に集められるのかということ。これまでも町政モニター等募集しているが、実際の応募は数人

の同じ方。百人委員会も集めるのを苦労していて、募集期間を延長しているが、まだ足りていない。できるだけたくさんの方から参加して頂きたいと考えたので、確実に見込める団体推薦を多くしている。公募が多い場合は、団体推薦を減らすことで考えている。

(齋藤委員長) 他に意見や質問等があればお願いしたい。

(委員) いろんな意見を聞きながらも、伝えることはすごく難しいと感じた。なので、自分としては行動してきた。自分には子どもがいないが、地区の子どもたちを自分の子どものように見てきた。中学生になって、その子たちが LINE を使うようになったら、伝達がかえって難しくなった。それと、地元の企業を応援するというのは、長い考えでぜひやってほしい。他所からの誘致も良いが、根強さはそれなりの思いを重ねているからだ。また、人とのコミュニケーションの場で、表情が見れないのと伝わりにくいことも多い。表情を見ながら会話するというのが、コミュニケーションの本来の姿ではないか。何をしたいのかを聞くときには、相手の顔の表情を見ることも大事。結婚の相談でも、相手を考えることが大事。

(齋藤委員長) 全体的な方向性から、具体的な意見もいただいた。これから事務局でまとめて、反映させていくことになると思うが、考え方の基本となるポイントだけは確認をしておきたい。最初の人口ビジョン・総合戦略のところ、p.17 の上の方に人口減少の予測があるが、分析等のまとめについて具体的な数字になっているのが「新軽米町総合発展計画」の 2020 年に 9,300 人以上という数字、それに近づけるように努力するとなっているが、それを基本として考えていくということで良いか。2060 年に日本がどうなっているかは、正直誰にもわからない。その数字をシミュレーションして、こだわってもあまり意味がない。何かの数字がないと戦略は立てられないので、総合計画で上がっている数字が 1 つの考え方として提示されている。そのための方策として、若い世代が町外に転出しているのを抑える、移住者を増やすために必要なものは仕事を生み出していくというコンセプトが打ち出されているが、それを柱とするということが良いか。柱が固まらないと、具体的な中身も定まらない。これらを基本とすることにしていきたい。それから、総合戦略の基本的な考え方が p.20 の頭に書いてある。基本的な考え方として、人口減少に歯止めをかけるのか、人口は関係なく住んでいる人が幸せになるのか、そのどちらが良いというのはないかも知れないが、持続可能な地域をつくるというのを全体的な考え方として、了承いただけるか。基本的な考え方は、大きな方向として了承いただいたものとして、4 つの基本目標で良いのかを事務局で再度検討していただきたい。今日初めて出てきたアンケートの結果も採り入れて頂いて、事務局で次の案としてまとめていただくことで良いか。(異議なし)

(事務局) 一点、先ほど千葉先生からご質問のあった件について、第二次産業が極端に下がったのはなぜかという話があったが、その背景として考えられることをお答えしたい。p.7 の産業別従事者数の変化についてだが、平成 11 年に大きな水害があって、平成 12 年頃に災害復旧の仕事が多く出てきた。それらは平成 15 年頃までに収束した。この推移はその影響と考えられる。

(委員長) 以上で協議事項を終わらせていただき、事務局にマイクをお返しする。

## 〇閉会

(事務局 1)